

## 郡市医師会長会議

と き 令和6年2月22日(木) 15:45～16:20

ところ 山口県医師会6階会議室

### 挨拶

**加藤会長** 本日は令和5年度第2回郡市医師会長会議にお集まりいただき、感謝申し上げます。今年度は診療報酬改定の年であり、診療報酬の大幅アップを目指して昨年10月から自民党山口県連とともに、決起大会や医政活動研究会などを開催し、また、意見書を国に提出した。その結果、本体部分だけで0.88%のプラスにはなったが、主に人件費に対する手当についてであり、経営する側からすると十分な手当ができていないのではないかと考えている。今、その詳細事項に関して、中医協からの短冊としてデータが出てきているが、診療所にとっても、病院経営にとってもかなり厳しいのではないかと印象を持っている。

医師の働き方改革が4月から始まる。これに関しても、山口県の最大の問題である若手医師の不足が問題になっている。働き方改革で時間外労働規制が厳密化されるため、一番影響を受けるのは時間外の救急医療だと思っている。このため、会長になってすぐ、時間外救急に対応する医師に対する手当を県に要望した。今年の働き方改革に間に合うように予算審議していただいているところだが、4月から開始できればいいと思っている。内容は3分の1を県が負担し、残りの3分の2は市町、病院の負担となっているが、病院の経営も苦しいので、3分の2については各市町で負担していただくようお願いしている。予算が正式に決まったら、市町の首長に対して要望書を出す予定にしているが、郡市医師会長の先生方におかれては、対応をよろしく願いたい。このことによって、時間外救急に携わっている若手医師が正しく評価され、時間外救急に携わる医師が増えて、経験を積んで医療の質が上がり、県民に提供する医療もレベルが高いものになることを期待している。

併せて、医師確保対策として、自治医科大学卒

業生は義務年限を過ぎると県内に約6割しか留まらないため、自治医科大学卒業生に対するキャリア形成のサポートとして、へき地や離島で勤務している自治医科大学卒業生の学会や出張などを支援する医師を募ったところ、7名の登録があった。郡市医師会長の先生方においても、時間的に余裕がある方がおられたら、ぜひ県医師会の方に申し出ていただき、登録医を増やしていただければと思っている。そうすることによって、自治医科大学卒業生に山口県で十分なサポートができ、専門医等も取れることになれば、県内に留まる率が上がっていくのではないかと考えている。

医業承継に関して、譲渡したいという医療機関が数件あり、譲り受けたいという方も数人いる。まだ成立はしていないが、そろそろ成立するのではないかと考えている。この事業はコンサルタントや銀行も入っており、相談は自由にできる。県にも予算を取っていただいて対応しているので、郡市医師会の先生方で、開業を考えている医師がおられれば、この事業のことをお伝えいただきたい。

県内の若手医師は大学病院勤務者が多いと思うが、若手で研究をしたいという医師を支援する医学研究助成事業を行っている。令和5年度は2件認め、この2件の研究成果は、今年、徳山で開催される医学会総会で発表されることになっている。

そのほか、県の教育委員会との懇談会を設けて、学校の現場で若いうちから健康教育、がん教育、性教育、禁煙教育などに取り組んでいただくことなどに力を入れている。その他、HPVワクチンなどについても、学校教育の現場で教えていただくことを要請している。

私が望むのは山口県が全国で一番、医師が働きやすい県になることである。できることを着実にやっていきたい。引き続きご支援、ご協力のほどよろしく願いたい。

議事

1. 都道府県医師会長会議について

加藤会長 第3回の都道府県医師会長会議のテーマは「医師の働き方改革について」であった。

医師の働き方改革が今年の4月から本格的に行われ、時間外の労働規制が強化される。山口県からは、①病院又は上司の命令による研修は時間外勤務、それ以外は自己研鑽という取り決めだけでいいのだろうか。②2024年以降の医療体制維持に関するデータ（15時間勤務9時間インターバルや28時間勤務18時間インターバルの影響）、時間外救急の需要状況の予測、病院経営に及ぼす影響などに関する情報があるのだろうか。③勤務環境の厳しい診療科への医師個人へのインセンティブを診療報酬で支える制度が必要と考えるのがいがか、という質問をした。3番目の質問は、今度の診療報酬でも40歳未満の勤務医を始めとする医療従事者等の賃上げを目的とした引上げが行われるが、医師や診療科の偏在を解決するためには、救急、外科、産婦人科等にきちんと手当をしなければならないと考え、質問をした。日医からの回答は、①の自己研鑽と時間外勤務の区別については、厚労省の通知に示された自己研鑽に係る労働時間の考え方に基づいて、医局全員の会議で院内規定を作成するとされている。②については、現時点では情報がなく、今後、厚労省においてさまざまな視点から研究・検証がなされるので、情報が分かれば、お伝えするという回答であった。③については、診療報酬は保険医療機関その

ものに支払われるもので、現状では各医療機関の経営の自由度をもって給与にインセンティブを設けて対応すべきと考えている、とのことであった。

その他、診療報酬に関して、生活習慣病に関わる医学管理料の見直しについて、「特定疾患療養管理料」の対象疾患から、脂質異常症、高血圧、糖尿病が除外されたが、これは「生活習慣病管理料（Ⅱ）」が新設される旨の説明があった。

また、組織強化について、財務省等に対抗していくにはかなりの政治力があるため、組織強化が重要である。特に若手医師に日医まで入会していただく必要があり、このため、松本日医会長は会長就任時に卒後5年目までの会費を免除する方針を出された。実際に2,000人程度、増えている。しかし、継続していかないと、日医の会員組織率が50%を切るような事態も考えられるので、組織強化を進めていかないといけない。県医師会の勤務医部会は昭和63年に設立され、その後、萩市医師会と徳山医師会が勤務医部会を設立した。平成31年に他の郡市医師会でも設立してほしいという要望を当時の河村会長と一緒に郡市医師会の会長にして、令和元年度は山陽小野田医師会、令和2年度は山口市医師会、令和3年度は宇部市医師会、令和4年度に柳井医師会、下関市医師会、岩国市医師会が設立した。勤務医部会を通じて、若い医師に医師会の活動について理解していただき、入会していただく努力はしているつもりである。皆さんも医師会のことを宣伝していただき、なるべく多くの方に入会してもらうように

出席者

郡市医師会長

大島郡	野村 壽和	徳山	津永 長門
玖珂	山下 秀治	防府	山本 一成
熊毛郡	沖野 良介	下松	山下 弘巳
吉南	田邊 亮	岩国市	小林 元壯
美祢郡	竹尾 善文	山陽小野田	藤村 嘉彦
下関市	飴山 晶	光市	廣田 修
宇部市	西村 滋生	柳井	弘田 直樹
山口市	成重 隆博	長門市	清水 達朗
萩市	綿貫 篤志	美祢市	札幌 博義

県医師会

会 長	加藤 智栄	理 事	白澤 文吾
副 会 長	沖中 芳彦	理 事	藤原 崇
専務理事	伊藤 真一	理 事	竹中 博昭
常任理事	前川 恭子	理 事	木村 正統
常任理事	河村 一郎	理 事	岡 紳爾
常任理事	長谷川奈津江	理 事	藤井 郁英
常任理事	上野 雄史	監 事	藤野 俊夫
常任理事	茶川 治樹	監 事	宮本 正樹
常任理事	縄田 修吾	監 事	友近 康明

広報委員 藤村 智之

していただきたい。

※詳細は『日医ニュース』第1498号をご参照  
願いたい。

## 2. 郡市医師会からの意見・要望

**山本会長（防府）** 第55回中四九医師会看護学校連絡協議会を防府看護専門学校が引き受けて、来たる8月18日に開催する。通常は土曜日の午後から開催し、土曜日の夜に懇親会をして、日曜日の午前中までというスケジュールだったが、コロナ禍においては1年目は中止、その後の2年間はWeb開催であった。今回はハイブリッド形式で開催する。前日に世話人会等々を含めて顔の見える関係づくりを行い、日曜日に、学び直しの方たちを支えることをテーマに、いろいろな講師の方にお話いただくよう、今着々とスケジュール等々を作成している。現在、医師会立の看護学校はどこもピンチであり、福岡市医師会の看護学校が准看護科と2年過程の募集を停止するという大きなニュースが入ってきた。そうすると、わが校のような小さな学校にも影響が出てくること

考えられ、医師会立の看護学校は先細りであり、これを防ぐことができないのかと考えているところである。わが校も応募者が少ない中、今回引き受けることになったが、本当に厳しい状況下での引き受けとなった。今後、山口県下の看護職員養成がどのようになっていくのか心配でたまらない。山口県内では徳山は中四九を脱退しており、下関は去年から募集をしていないので、宇部と防府が主に参加することになるかと思うが、他の郡市医師会の先生方もぜひ、こういうことがあるということを知っていただき、看護学校存続に少しでもお力添えをいただければと思う。

**加藤会長** 県医師会もその予算を少し増やして支援するようにしている。

**津永会長（徳山）** 6月9日に周南市文化会館で医学会総会、市民公開講座を予定している。後日、改めて連絡をさせていただくので、多くの方の参加をお願いする。

## 傍聴印象記

広報委員 藤村 智之

令和5年度第2回郡市医師会会長会議を傍聴した。

雨がちの肌寒い天候の中、会議が始まった。コロナ禍も4年目に突入したが、さすがにこの度の会議ではコロナ関係の話題は全く出なかった。

会議の詳細は記事を読んでいただきたい。

加藤会長のあいさつに引き続き、山口県健康福祉部長から県の当初予算（案）についての説明があった。その中で女性と働く世代へのがん検診キャンペーン推進や、HPVワクチン接種事業が紹介されていた。

議題に移り、都道府県医師会会長会議で、県医師会として日本医師会に質問を行ったことが報告された。

次に郡市医師会からの報告として、第55回中

四九地区医師会看護学校連絡協議会が今年8月に「防府看護専門学校」の引受で開催されることが防府医師会の山本一成会長から告げられた。

私は恥ずかしながら、「中四九」と略されるこの用語の意味がわかっておらず、この度改めて理解した次第である。

どこの医師会立看護学校も、応募者が少ないなど厳しい運営を余儀なくされているとのことであった。

今後、県医師会としても、医師会看護学校の存続に向けての何らかの力添えをすべき時ではないかと感じた。